

# 愛知県感染症情報

## 平成 13 年第 17 週（4 月第 4 週）

（コメント）

麻疹は、豊川保健所管内で報告が多いようです。伝染性紅斑、咽頭結膜熱の報告数は、依然多い状況が続いています。

33 豊川（6）	20 名古屋市（70）	8 一宮 （8）	16 その他（98）
-------------	----------------	----------------	---------------

地区別麻疹届出数（定点数）

（先生方からのコメント）

- 尾張西部地区
  - ・ 病原性大腸菌陽性者 O-124 6歳女  
（尾西市 城後小児科）
- 尾張東部地区
  - ・ インフルエンザ（FluA<sup>\*1</sup>陽性4名、OIA<sup>\*2</sup>陽性1名）5名。  
マイコプラズマ感染（肺炎、気管支炎）が多くみられます。  
咽頭結膜熱（アデノチェック陽性）も6名。  
（瀬戸市 津田こどもクリニック）

注）FluA<sup>\*1</sup>：A型インフルエンザウイルスを検出する迅速診断キットの一種。

OIA<sup>\*2</sup>：A・B型インフルエンザウイルスを同時に検出する迅速診断キットの一種。ただしA・B型の区別はできない。

- ・ 水痘がやや目立ってきたように思われます。  
流行性耳下腺炎流行中。溶連菌感染症は落ち着いてきたようです。  
高熱以外の症状に乏しく、所見もあまりはっきりしない症例が幼児、学童に目立ちました。  
（尾張旭市 佐伯小児科医院）
- ・ 水痘が流行している。  
（新川町 三輪医院）

- 西三河地区
  - ・ マイコプラズマ感染症 8歳男  
カンピロバクター腸炎 7ヶ月男  
(豊田市 星が丘たなかこどもクリニック)
  - ・ 高熱 4、5日続く咽頭症が多い。  
百日せき 男女 1、2歳  
水痘、ムンプス症流行  
(豊田市 やふそ小児科)
  - ・ 麻疹 29歳女麻疹ワクチン(未)  
(岡崎市 スズキ医院)
  - ・ カンピロバクター 1歳男  
(岡崎市 にいのみ小児科)
  - ・ 3ヶ月男 PCF(咽頭結膜熱)は兄弟から, 6歳男カンピロバクター、  
3歳男の麻疹は感染経路不明でワクチン未接種児です  
(岡崎市 花田こどもクリニック)
  - ・ インフルエンザ A 17歳女  
(岡崎市 永坂内科医院)
  - ・ ロタウィルス 1歳男  
(岡崎市 深田小児科)
  - ・ 特に目立った感染症はありません。  
(西尾市 やすい小児科)
- 東三河地区
  - ・ インフルエンザ B が流行しています。  
マイコプラズマ肺炎の子が時々います。  
(豊橋市 こどもの国大谷小児科)
  - ・ インフルエンザ様に高熱が3日位続く患者が増えています。  
(豊橋市 あずまだこどもクリニック)
  - ・ 今週も高熱にて5~6日つづく児あり。ムンプス、水痘が目立っ  
てきました。  
(田原町 かわせ小児科)

(1~3類感染症の発生状況)

細菌性赤痢患者 2名。

- ・ 春日井保健所から報告の31歳女。4/17発病、4/20初診、4/27診  
定。菌型はゾンネ 相。ベトナム渡航歴あり。

- ・ 刈谷保健所から報告の 71 歳男。4/24 発病、4/26 初診、4/28 診定。  
菌型はフレキシネル 1a 型。

腸管出血性大腸菌感染症患者 1 名。

豊橋市保健所から報告の 26 歳男。4/12 発病、4/18 初診、4/24 診定。  
菌型は 0-157 VT2 ( + )。

腸管出血性大腸菌保有者 1 名。

豊橋市保健所から報告の 25 歳女。4/18 初診、4/24 診定。  
菌型は 0-157 VT2 ( + )。

( 全数把握の 4 類感染症の発生状況 )  
報告はありません。

第 15 週 ( 平成 13 年 4 月 9 日 ~ 4 月 15 日 ) の 4 類感染症の全国状況  
流行性耳下腺炎は、過去 5 年の同時期と比較して定点当たり報告数が  
かなり多くなっており、福井県で 7.9 、熊本県で 3.7 、香川県で 3.6  
、佐賀県で 3.4 の報告がある。麻疹も例年の同時期とくらべ定点当  
たり報告数がかなり多く、高知県で 2.6 、大分県で 2.4 、熊本県で 2.2  
となっている。咽頭結膜熱は、オフシーズンとしては例年になく定  
点当たり報告数が多くなっている。流行性角結膜炎は宮崎県で定  
点当たり報告数 4.0 、広島県で 3.4 と多くなっている。

( Infectious Diseases Weekly Report より抜粋

厚生労働省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供 )

2001 年 3 月 23 日号 (76 巻 12 号)

コレラ。南アフリカのその後：3 月 14 日時点で 69,761 例 (死亡 139)。ナタール州に集中。州政府、WHO、非政府組織による対策実施中。

予防接種副作用：予防接種の普及につれて副作用問題が世界的な話題となっている。本報は 99 年 9 月から WHO 主導で開始された予防接種安全調査の内容が紹介されている。問題は報告が定期的なされること、予防接種固有の副作用であること (正確かどうか)、それぞれの予防接種の生物活性に基づく調査であること (副作用類似の偶発的な症状ではないか)、など長期にわたる調査が開始されている。

マラリア撲滅作戦 (続報)：00 年 4 月、WHO の会議。世界的なマラリア対策として抗マラリア剤の供給の問題。世界銀行等による援助。アフリカ地区では薬剤供給とともに蚊対策として殺虫剤提供。東南アジアでは薬剤耐性マラリア問題があり丁寧な実態調査と蚊対策の展開。中南米では薬剤耐性マラリアの調査が緊急の話題となっている。

インフルエンザ (00 年 3 月)：チェコ、香港、日本。いずれも A 型。アイスランドでは A 型と B 型の混合流行。

3 月 16 - 22 日届出疾患：コレラ。ケニア、ジンバブエ。

2001 年 3 月 30 日号 (76 巻 13 号)

ペスト。ザンビア：本年 3 月、同国東部州から WHO に 23 例の入院例 (3 例死亡) の報告があり発生状況の調査と環境整備、教育活動が開始されている。

黄熱。ブラジルのその後：3 月 13 日時点で疑似を含め 48 例が届出、血清学的な確定例 20 (9 例死亡)。

髄膜炎菌髄膜炎。サハラ砂漠南縁諸国のその後：相変わらず発生中。ベニン (3,643 例。死亡 172)、ブルキナファソ (4,350 例。死亡 719)、カメルーン (415 例。死亡 28)、チャド (3,064 例。死亡 337)、エチオピア (2,324 例。死亡 148)、ニジェール (1,795 例。死亡 137)。

ポリオ根絶。2 型野生株の根絶：世界から 2 型野生株が消滅する可能性が実現。作戦としてワクチン接種の徹底化 (定期接種普及と全国一斉接種、発生地区の絨毯爆撃的)、急性弛緩性患者の報告網とウイルス検査の整備、が進展。2 型野生株による麻痺例はエジプト (90 年)、アフガニスタンとパキスタン (97 年)、インド (99 年) 以降未報告で徹底した調査網のもとに監視が継続中。ただ、1 型野生株と 3 型野生株の流行は南アジアやアフリカで発生中で対策が急務となっている。

インフルエンザ (01 年 3 月)：ノルウエー、ルーマニア、ロシア。A 型と B 型。

3 月 23 - 29 日届出疾患：黄熱。ブラジル、ペルー。コレラ。ミクロネシア。

連休をひかえて色々と予定をたてていらっしゃる家族の方もおいでと思います。今年はお天気はどうでしょうか。楽しい連休ですといいのですが。いつも貴重な情報を有難うございます。4月前半のまとめをお送りします。

1. 名古屋市内：インフルエンザの発生が小規模散発的ですが相変わらず続いている地区と峠をこえた地区がありますが市全体としては落ち着いた傾向があります。主流はベッドサイドの迅速テストキットでA型陽性、陽性材料から衛生研究所でウイルスが分離されていて主体はA型（H1N1）で一部B型です。肺炎合併例や熱性痙攣で入院を要した例の報告もいただきました。一部の地区では小学高学年や中学生の小規模発生、家族内発生がみられています。A型とB型に症状の差はない、ワクチン接種による症状の軽減効果はみとめられない、などのご報告もいただきました（第一日赤有吉先生、三菱病院岩間先生、労災病院山田先生、大同病院水野先生）。ロタウイルスを中心とした感染性胃腸炎が相変わらず発生中で脱水から入院を要する例が目立ちますが、地区によってはロタウイルス陰性例やアデノウイルス陽性例があるという報告もいただいています（第一日赤有吉先生、三菱・岩間先生、労災・山田先生、大同・水野先生）。インフルエンザ以外の高熱の感冒が多い（三菱・岩間先生）、熱と軽い咳の感冒が保育園児で発生（千種区今枝先生）、細菌性の腸炎（三菱・岩間先生、労災・山田先生）、溶連菌感染症と溶連菌以外の細菌性扁桃炎、溶連菌感染症後の急性腎炎、マイコプラズマ感染症を含む急性肺炎、アデノウイルスによる発熱と扁桃炎などが散発的に発生、細菌性髄膜炎（インフルエンザ桿菌やB群溶連菌）、手足口病発生中の保育園などの報告もいただきました（第一日赤有吉先生、三菱・岩間先生、労災・山田先生、大同・水野先生）。水痘、ムンプス、伝染性紅斑の小規模流行が各地区で続いていてムンプス髄膜炎が目立つ地区もあちこちに見られます（第一日赤有吉先生、三菱・岩間先生、労災・山田先生、大同・水野先生）。今回も市内各地区から麻疹発生の報告をいただきました。新学期を迎え流行が大きくなるか心配です（第一日赤有吉先生、労災・山田先生、大同・水野先生）。もう少し接種率が良くなることを期待したいです。

2. 尾張地区：犬山市武内先生からはロタウイルス腸炎を含む感染性胃腸炎がやや多く、ムンプスと水痘が散発中、江南市では麻疹（ワクチン未接種の年長児、入院例目立つ）、ロタウイルス腸炎、消化器症状を伴う発熱などが目立ち（昭和病院西村先生、愛北病院露木先生）、常滑市民病院上田先生からはウイルス性胃腸炎、ムンプス（髄膜炎あり）が流行中でこの地区でも麻疹が流行していて要入院あり、市立半田病院中島先生からは水痘とムンプスは相変わらずでここも麻疹が流行、5～6名入院したとのお手紙でした。

3. 三河地区：トヨタ病院木戸先生からはロタウイルス、インフルエンザ、RSウイルス感染症が流行中でこれら疾患で入院例が目立つ、岡崎市民病院糸洲先生からは特に目立つ感染症はない、知立市近藤先生からはムンプスが流行中で高熱の感冒が散発中で、百日咳1例、伝染性紅斑あり、刈谷市田和先生からも百日咳（2歳、ワクチン未接種）あり、水痘とムンプスが散発、ロタ陽性を含む胃腸炎散発、碧南市永井先生からはムンプスが目立ち手足口病散発、ワクチン未接種児の麻疹あり、豊橋市宮澤先生からはマイコプラズマ肺炎、嘔吐下痢症がみられるとのお手紙でした。有難うございました。